

平成16年度第5回生物物理運営委員会議事次第

日時：平成16年10月23日（土）13：00～

場所：早稲田大学120-1号館301号室

出席者：石渡会長、美宅副会長、難波副会長、有坂、栗原、諏訪、永山、三木、薬師、宇高、石島、金城、国岡、安永、若杉各運営委員、阿久津会誌編集委員長、川端支部長（北海道）、森島年会(H16)実行委員長、石森年会(H16)実行委員、河合秘書

報告事項：

1. 平成16年度年会準備状況（森島）

森島年会(H16)実行委員長及び石森年会(H16)実行委員より、報告1の資料に基づき報告がなされた。

発表件数は、ポスター955件、シンポジウム112件の合計1067件である。ポスター件数が昨年に比べ100件弱増えている。

本年は、男女参画シンポジウムをランチョンセミナーの時間枠で行う。このことについて男女参画シンポジウムを軽んじているのではないかとのクレームがあったとの報告がなされた。これに対し男女参画シンポジウムの時間枠を昼間に設定し、弁当付きで行うのは、重要視しているからであることの再確認がなされた。今後の男女参画をランチョンセミナーの時間枠で行うかどうかは、平成16年度の年会の結果を考慮し判断することになった。年会、懇親会ともに大幅の赤字はでないとの収支予想について説明がなされた。

学会当日、発表者（ポスター発表者を含む）が会員の登録をしているかチェックを行うことになった。

事前登録した方が事前登録しなかった人に比べ、学会会場で、より長時間列に並んでいたことが過去の学会であるので、受付の人数を調整してほしいとの要望が出された。また、登録証は郵送した方がいいのではとの案も出された。

2. 平成17年度年会準備状況

川端委員より資料（報告2）に基づき、平成17年度年会準備状況の収入・支出予想の報告があった。

開催日時：2005年11月23日（水）～25日（金）

開催場所：札幌コンベンションセンター

懇親会：札幌ガーデンパレス

市民講演会：11月26日

3. 2006年第5回EABSと平成18年度年会準備状況（難波）

難波副会長より報告3の資料をもとに報告がされた。

開催日時：2006年11月12日（日）～16日（木）

（会議期間：11月13日（月）～16日（木））

開催場所：沖縄コンベンションセンター

ICS (+JTB)と近畿日本ツーリストともに概算費用は3200万円位であり、2つの候補のどちらにするかは、年会実行委員会に一任することです承された。

4. 男女共同参画・若手問題検討委員会報告（三木）

4-1. 8月7日に開催された日本生物物理学会運営委員会有志懇談会議事録に基づき、育児期間、雇用目標値の設定など説明があった。

4-2. 10月7日の男女共同参画協会連絡会－設立2周年シンポジウムの報告がされ、「提言」の説明がなされた。

4-3. 年会での男女共同参画に関するシンポジウム「多様化する研究者の理想像を目指して」で発表する人と発表内容の確認がなされた。年会の際、250食分の弁当を用意することになった。

5. 平成16年度科研費補助金(特別研究促進費)申請について（石渡）

石渡会長より資料（報告5）に基づき報告があった。

補助金交付申請書「国際シンポジウム等」計画調書を提出し、採択され470万円の補助金を受けることに決まった。補助金交付申請書「学術定期刊行物」計画調書も提出したが、こちらは不採択であった。

6. 世界物理年企画への参加について（石渡）

石渡会長より資料（報告6）に基づき報告があった。「世界物理年日本委員会」設立に参加し、北大での年会公開シンポジウムを世界物理年企画との共催とする予定であるとの説明がなされた。

7. 5回IUPABについて（石渡）

石渡会長より5回IUPABについて説明がなされた。資料（報告7）は発表者のリストである。

8. 懇談会報告について（石渡）

石渡会長より資料（報8）に基づき、日本学術会議「世界に向けての学術情報発信機能強化対策懇談会」の報告がなされた。

議 題

1. 本学会事務センター破綻に伴う問題について

1-1. 今後の対応策について資料（議 1-1a,1-1b,1-1c）に基づき、石渡会長より説明がなされた。

会計をしっかり監視する人がいる必要があるのではとの意見が出された。

今後破産学会連合と協力しながらやっていく。

メディ・イシュの会社の説明を行ったうえで年会の運営委員会で決断し、来年1月には移行したいとの提案が石渡会長よりなされた。

1-2. 平成16年度会計について(総会での報告に向けて)、有坂・石島委員より資料（議 1-2）に基づき説明がなされた。

破産債権届出書の記載は3,520,981円である。

総会では、7月の運営委員会で承認された6月頃の報告とその後の日本学会事務センター破綻についての説明を行うことでの了承された。

2. E-journal (Biophysics) について (美宅) (添付資料)

全ての記事のタイトルを表紙にのせるなど、表紙の変更について説明があった。

今年分発送はサイペックで行う。

英文ジャーナル(中西印刷)掲載料:基本料1論文3万円 ページあたり5千円 (但し、会員で投稿する場合、基本料は半額とする。また、支払いが不能との申告が認められた場合、掲載料は免除される。) 英文校閲を行う。

投稿料などを含め投稿規定を英語でもホームページに10月中に掲載することに決まった。

3. 名誉会員規定について (石渡)

資料(議3)に基づいて議論がされ、以下の点を変更することでの了承された。

1) 名誉会員に必要な本学会会員である期間は30年から通算20年に変更する。

2) 1-2項、1-3項の年齢を65歳から63歳へ変更する。

3) 2-4項を削除する。

4) 4項の後半を削除する。

シニアメンバー(63歳以上)に関しては次回議論することに決まった。

シニアメンバーと学生とは同じ会費にする。本当に必要な人の減額になるかどうか疑問との意見なども出された。

4. 日本生物物理学会若手奨励賞について (薬師)

薬師委員より資料(議4)に基づき説明がなされた。日本生物物理学会若手奨励賞の公告と規定に関しては承認された。詳細は今後議論していくことになった。この奨励賞は、定

職に就いていないポスドクや博士課程の学生に、就職などの際に役立つことを念頭に与える。年会において優秀な一般演題を発表した若手会員に対し「奨励賞」を授与し、生物物理学会の発展に貢献する人材として、その将来性への期待を表明する。

まず、5名位の若手奨励賞選考委員会（運営委員数名を含む）により、講演要旨と過去の業績をもとに10件候補者を選びだす（一次選考）。この中から、学会当日行う口頭発表（公開シンポジウムにする）により5件以内を選びだし（二次選考）、日本生物物理学会若手奨励賞を与える。この二次選考は、できる限り多くの分野別専門委員により実施する。一次選考で選ばれ二次選考で選ばれなかったものにも、何らかの賞を与える。

これに対し、要旨を送る際若手奨励賞に応募するかどうかチェックするだけの方がいいのではとの案が出された。また、まずポスター賞として開始した方がいいのではなどの意見も出された。

若手奨励賞選考委員会と年会プログラム委員との連絡を密にとる必要があるとの指摘がなされた。

5. 平成17年度年会開催案内とシンポジウム企画募集について（金城）

金城委員より、資料（議5）に基づき説明があり、公告（分野別専門委員用、一般用）が承認された。

一般シンポ9件＋予算負担シンポ4件＋分野別シンポ5件＋ポスターシンポ2件の合計20件を考えているとの報告がなされた。

6. 会則・細則の改正について、石渡会長より説明があり、承認された。

連絡事項：

次回以降の運営委員会日程について

H16第6回（旧）運営委員会	12月13日（月）	12：00～
H16新旧合同委員会	12月13日（月）	18：00～
H17第1回（新）運営委員会	12月15日（水）	12：00～
H17第2回運営委員会	12月15日（水）	18：00～

以上（書記：若杉 桂輔）